



平成29年9月15日

川西町議会議長 加藤 俊一 殿

川西町議会産業厚生常任委員会
委員長 高橋 照夫

閉会中の所管事務調査先進地視察調査報告について

平成29年第2回川西町議会定例会において許可された所管事務調査（先進地視察調査）について、別紙のとおり報告します。



平成29年度 川西町議会産業厚生常任委員会行政視察報告書

1 視察期日 平成29年8月24日(木)～8月26日(土)

2 視察地

- ① 島根県津和野町
- ② 島根県邑南町

3 視察参加者(敬称略)

委員長 高橋 照夫 副委員長 鈴木 清左衛門
委員 佐々木賢一 齋藤 修一 斉藤 智志
神村 建二 伊藤 寿郎
議会議長 加藤 俊一
健康福祉課主幹 齋藤富士雄 参加総勢 9名

4 視察目的

- ① 糖尿病対応に関する先進地視察調査
- ② A級グルメなどによる地域おこし先進地視察調査

5 視察報告「①糖尿病対応に関する先進地視察調査」

- (1) 日時 平成29年8月24日(水)午後1時30分から3時00分
- (2) 視察地 〒699-5605 島根県鹿足郡津和野町後田ロ-66
- (3) 場所 津和野町コミュニティセンター
- (4) 視察対応者(敬称略)

津和野町長 下 森 博 之 議長 沖 田 守
健康福祉課長 土 井 泰 一 栄養士 石 川 香 織
議会事務局長 福 田 浩 文 書記 金 子 久 代

ア) 津和野町概要

津和野町は平成17年に旧津和野町と旧日原町が合併し誕生した。人口は約7,500人、世帯数は約3,400世帯を数えている。島根県の西端で、県庁所在地の松江市から約200kmに位置しており、山口県萩市・阿東町に隣接している。町の様子については、山あいには白壁と赤瓦の家並みがつづき、西に山城の跡がみえる城下町で『山陰の小京都』と呼ばれている。歴代藩主は産業開発と教育の振興に力を注ぎ、森鷗外や西周などの傑出した人材を輩出する礎になった。津和野の町並みを見おろすようにそびえる秀峰青野山と、西

日本では稀に見るブナの原生林に覆われた安蔵寺山、キシツツジや照葉樹林に囲まれた高津川と津和野川の清流、緑豊かな自然を生かした地域となっている。

イ) 研修内容

各種健康教室

健康手帳の交付を行い、生活習慣病予防・健康づくりなどについて、各種の健康教室を開催する。

特定保健指導

特定検診（40歳から74歳の公的医療保険に加入の方に行われる、糖尿病などの生活習慣病に関する健康診査）の結果を基に、指導が必要な方々を下記のように分けている。

指導区分		対象者
1	積極支援	生活習慣の改善が必要な方で、定期的・継続的な支援を必要とする方
2	動機付け支援	生活習慣を変えるにあたり、意思決定の支援が必要な方
3	情報提供	受診者全員

その中でも1と2のレベルの方を対象とした教室(集団、個別指導、個別相談等)である。日原と津和野の2会場で実施する。

糖尿病教室

糖尿病への正しい理解と予防についての教室である。日原と津和野の2会場で実施する。

生活習慣病教室

生活習慣病についての正しい知識を普及するため、町内医師による健康教室を開催する。

女性の健康講座

女性の健康週間（毎年3月1日から3月8日まで）にあわせて健康講座を実施する。

健康手帳の交付

健康診断の記録や健康についての必要なことをメモし、健康管理に役立てていただくために発行している。老人医療の手続きをすると必ず交付されるが、その他にも健康診断・血圧測定等の時に発行している。それ以外でもご希望

者には健康保険課で交付する。

特に、かかりつけ医と連携した重症化予防対策を実施している。

また、島根県全体であるが、糖尿病の要指導者に糖負荷試験の案内を送る。

また、うち、ヘモグロビンA1C6.0～6.4を対象に指導を行う。

ウ) 質疑応答

Q伊藤委員 糖尿病の教室で食事のカロリー指導も行うか。

A石川職員 個体差に応じた対応をしているが、そんなに大きくは変わらないので一般的な指導となる。

Q佐々木委員 教室への参加者が減少しているというが、そのことに対する啓発予防活動はどうされているのか。

A石川職員 ポスターやチラシを早めに目立つところに提示している。町の広報に記事を掲載し、CATVや庁舎内の館内放送で発信している。また、さまざまな組織に対して声がけしている。

Q加藤議長 プライバシーを超えた対応はどうされているのか。

A石川職員 広く町民に誘いをかけることにより、気楽に参加できる環境づくりを心掛けている。要指導者には、継続観察と医療機関への受診を進めている。

Q加藤議長 津和野町では糖尿病患者は多いのか。

A石川職員 島根県全体の中では少なめであるが、調査対象者が微増しているので注視している

Q鈴木副委員長

この対策にかかる町の事業費はいくらか。また、このような予防的な取り組みをどのように継続していくのか。

A沖田課長 事業費はたいしたことはない。食生活改善推進協議会の活動が活発で推進役になっているが、高齢化が進んでいるので若年齢化を考えながら、組織の維持を図ることにより継続を図りたい。土曜日曜の教室の展開も進めたい。

Q伊藤委員 「広報つわの」の2017年9月号の中身で、健康福祉課の情報量が多いと感じるが、いつもこのような状態なのか。

A沖田課長 その時々により変わる。健康福祉課としては広範な対応なので多い。

Q齊藤智志委員

糖尿病教室で運動教室とあるがどんな内容なのか。また、かかりつけ医との連携で、効果がみられたのはどんなところか。

A石川職員 有酸素運動によりエネルギーを消費させることが必要である。燃やすための筋肉の能力を高めるために運動を行う。講

師からはその必要性と対策を話してもらおう。また、かかりつけ医との連携では、生活指導や訪問看護師などが、個人宅を訪れる際に医師から情報をもらって、その後に医師に状況を報告するなどして適切な対応ができるようになっている。個人情報については了解を得て行っている。

Q 齋藤修一委員

大変良い取り組みをしていると感じた。今後の発展的な対応を期待したいが。

A 沖田課長

本人様がいかにその気になるかを上手に誘導したい。

A 石川職員

かかりつけ医との連携を密接にしながら対応にあたりたい。

Q 高橋委員長

糖尿病に更なる関心を持ってもらう方法はあるのか。

A 沖田課長。

これ以上の対応はないものと思われるが、若い人に対してさらに対策したい。

A 下森議長

夫婦により啓発することが何よりではないか。啓発活動こそ必要である。

Q 齋藤主幹

医師会との連携の仕方の良い方法はあるのか。食生活改善推進協議会との取り組みを進めるための参考になることがあれば後ほど教えていただきたい。

A 沖田課長

後で資料をお渡しする。

Q 加藤議長

観光客が100万人おられるが、どのようなところに集客できているのか。

A 下森議長

正月三が日30万人の太鼓谷稻荷神社と期限を切ったのSL山口号である。城跡の武家屋敷群の街並みへインバウンド需要を取り組むためのWi-Fi対策を進めることにして、どんどん呼び込もうとしている。宿泊が3万人しかいないので対応を進めたい。

Q 神村委員

定住移住の住宅提供事業は継続しているか。

A 下森議長

継続しているが、財源の問題があるのでこれからはPFI方式に切り替えて31年から12戸建設予定である。

エ) 総括

津和野町の人たちには、糖尿病を理解しようという機運が、広まりつつあるのだと思う。様々なところで目にし、耳にするだろうからだ。それは、常態化した地方行政の先進的な取り組みが功を奏して、人々を様々な負担から解放しようとしているのだと思う。

以上

視察報告「②A級グルメなどによる地域おこし先進地視察調査」

- (1) 日 時 平成29年8月25日(金) 午前10時から12時
- (2) 視察地 〒696-0103 島根県邑智郡邑南町矢上6000
- (3) 場 所 邑南町役場3F第2委員会室
- (4) 視察対応者(敬称略)

邑南町議会議員 産業建設常任委員長 日野原利郎

邑南町 農林振興課 食と農産業戦略室 係長 寺本英仁

邑南町議会事務局 大賀 定

ア) 邑南町概要

邑南町は、島根県中南部の東経132度18分から42分、北緯34度46分から58分に位置し、西側は浜田市、北側は江津市・川本町・美郷町、南側は広島県安芸高田市・北広島町、東側は広島県三次市に囲まれた、面積419.29km²の広大な地域である。中山間地に代表的な盆地の多い地形で、東側の羽須美地域をはじめ低地の割合も多く、そのほとんどは標高100~600mの地域となっている。また、瑞穂地域、石見地域の南側から西側にかけては中国山地の1,000m級の急峻な地形も分布している。地域の東部と広島県との境には、中国地方最大の河川である江の川が北流している。山間部の中高地を、出羽川、濁川とその支流など、江の川に流入する多くの河川が浸食したことにより、地域内に盆地と山地の組み合わせによる優れた景観をもたらしている。これらの自然条件が、時には洪水や土砂災害等の被害を及ぼしてきたことから、これまで治水・治山に多くの努力がなされてきた。地域とその周辺の気候は、日本海性気候に属し、かつ山地性の気候で夏に雨が多く、日中と夜間の温度差が激しくなっている。松江市は北陸型の日本海気候であるが、この地域は北九州型に近い日本海性山間地特有の気候となっている。また、夏から秋にかけては台風の影響を受け、冬季は降雪のために降水量が増えるという特徴がある。

邑南町の人口は、2016年9月1日において11,257人、世帯数は5,020世帯となっている。人口は1985年頃から減少し続けており、全国的にも少子高齢化の進行が早い地域である。また、自然減、社会増による人口の推移が特徴的で、転入先、転出先ともに広島県が多くなっている。邑南町の合計特殊出生率は、2010年以降すべての年で全国平均を大きく上回っており、人口を維持するために必要となる2.07を超えている年もみられる。

イ) 研修内容

A級グルメの町として盛り上がっている邑南町。”A級グルメ立町”としての取組はますます発展中！今年の春に町立『食の学校』が設立され、7月より本始動する。「世界に通用するシェフを育てたい」との思いと共に、邑南町の「田舎と

しての誇り」を伝承していきたいという思いもこめられている。まず「日本一の子育て村」は公立病院の産婦人科・小児科専門医の常勤による24時間365日の救急受付、第2子以降の保育料完全無料化、3世代家族の近居のための住宅建築費の助成等を実施し、「日本一」子育てしやすいまちづくりを行っている。「A級グルメ」とは、町長が「Bではダメなんだ、Aでなければダメなんだ。」という事で始まった取り組みである。2011年に観光協会運営のイタリアンレストランAJIKURAを開業、町内出身のシェフや、ソムリエ、パティシエ等のUIJターン人材の誘致を実施、地域おこし協力隊事業を活用する。食材づくりから料理までを一貫して行える人材を「耕すシェフ」というが、グッドデザイン賞をもらった言葉だ。このようにしてA級グルメの担い手として育成している。また、「BLOF理論の農の学校」で栽培技術を広めながら「食の学校」で邑南町の農業と食文化を100年先の子どもたちに伝承するための食農教育の実習を行い、6次産業化の推進に向けた邑南町食材の活用策の研究・新商品の開発及びテストマーケティングを進め、住民がビレッジプライドを再認識できる場の創出を行う。来訪者が魅力を感じる来町動機の創造及び、町内滞在時間の延滞化のための邑南町の農業と食文化の魅力の洗い出し及び情報整理で町の魅力を発信してゆく。





「Bではダメなんだ。A級こそ求められる、と語る町長がいるからこそできた。」と語る寺本係長。メディアでも有名人だ。

ウ) 質疑応答

Q神村委員 農の学校の食の学校を展開しているが、その中の「香楽マルシェ」「JOAA」の内容について聞きたい。

A寺本係長 「香楽マルシェ」は農の学校で生産されたものと、邑南町で生産された農家のものを土曜日曜だけ販売している。「JOAA」は株式会社で、20年ほど前に山形県から農業研修生でIターンにより邑南町に入った、モトキ氏が立ち上げたもので、農の学校の校長も務めその生産物を全国に販売している。売り上げは、販売額と講師としての指導料が含まれる。BLOF理論を教える。

Q伊藤委員 「JOAA」は都市圏に出先はあるのか。山形県の奥田シェフとのつながりはどうなっているのか。

A寺本係長 支店はない。「JOAA」はモトキ氏と事務員の2名のみのものであり手数料は10%、全国に売ってゆくには邑南町だけの生産物では足りないので、農の学校の理論を進めながら、全国から供給できる仕組みとなってきた。奥田シェフとの関係は、10年ほど前に町長が奥田シェフのところに食べに行っていたのが始まりで、その後テレビの対談で私と知り合いになった。今では広島三越にAJIKURAアルケッチャーノという店まででき、鶴岡にシェフの勉強で、邑南町から2名移住している。

Q伊藤委員 「食と農産業戦略室」を立ち上げたのはいつか。

A寺本係長 今年の4月に機構改革でできた。邑南町は農業の町なので農林振興課での扱いとなった。

Q加藤議長 このプロジェクトの発想と、いきさつを聞きたい。

A寺本係長 町長の旗振りによる。「ふるさとづくり大賞」の受賞祝賀会で実績を説明したおりに、「SNS」という町長がよく使うフレーズを紹介した。「スピード、ネーミング、ストーリー」で時代を先取りしてゆく姿勢が表れている。平成16年に初当選した時に「子育て日本一の村」として売り出した。ネーミングは印象をわかりやすくイメージさせるものとする。「耕すシェフ」はグッドデザイン賞を受けている。走りながら課題を解決しながら作っていくという形で進んできた。起業したくて移住してきた人に、資金面から相談に乗りながら対応している。私の活動は、アイデアではなく、やっているうちに次々課題が出てくるので解決しようとしているだけだ。

Q齊藤智志委員

このような姿に町ができ上がるまでの観光協会、商工会、農協とのかかわり方を聞きたい。

A寺本係長 観光協会は一般社団法人で、去年の10月から民間の理事長となったが役場と共に進んでいる。商工会とは、「仕事づくりセンター」を10月にオープンさせ、月額100万円で全国公募し担当してもらうことで、起業を継続的にサポートしてもらう体制を作るところだ。農協とは邑南野菜、イタリア料理の西洋野菜を作る人が多くなってきて、農協OBが農林振興課に配属されて、農協と連携した取り組みに当たっている。農商工連携の流れがうまくできている。すべての団体に、行政こそが声をかけて意見の集約、調整をおこなうことで課題の解決につながる。ことあるごとに会議をして話し合うことが必要である。

Q齋藤修一委員

寺本さんは農家なのか。牛は飼っているのか。

A寺本係長 石見和牛の担当の時に、帝国ホテルのバイヤーと話して、「良い牛なので2週間フェアをやるから、フィレとサーロインを200頭分持ってきてくれ。後の部位はいらない。」と言われた。その後自分で飼うようになった。現在地域の人に手伝ってもらって、親牛が12頭いる。

Q伊藤委員 農業後継者はいるのか。

A寺本係長 農業を選択する人はIターンが多い。農林振興するうえで大事なことは、耕作放棄地を少なくし農地を守ることと、新規就農者を増やすことは分けて考えるべきだということだ。

Q鈴木副委員長

区画が小さく落差のある田んぼをどう維持するのか。

A寺本係長 付加価値の高い生産物を作るのは1割程度でよいと思う。そのほかの9割は国に頼るしかない。

Q鈴木副委員長

92万人の観光客で収入とみなす金額はいくらか。

A寺本係長 「瑞穂ハイランド」のスキー場が15万人、次いで75mのウォータースライダーを持つ「青少年旅行村」が多い。「霧の湯」などの宿泊施設に加えて、40軒の農家民宿がある。

Q佐々木委員 食と農産業戦略室の方向性で、「食と農によるクラスター（房づくり）」、「小商いの推奨」とあるが具体的にどういうことか。

A寺本係長 農林商工等連携ビジョンは、起業家数の目標5人対して起業は43人で860%となっている。60歳以上の定年組によるものが多く、しかも農家民宿が多い。「半農半X」という考え方による。つまり、退職して農業やレストランや、農家民泊を始める。収入は農業プラス年金やA級グルメなどの加工品となり、都会で暮らすより収入が多くなる特徴を持つ。また「食と農の人材育成センター」を法人格で4月から立ち上げ、その代表を邑南町病院の元院長が務める。その活動としてA級グルメを病院食に応用し、普段食べる食材もA級グルメにすることでみんなが健康で長生きできる町にしたい。

Q高橋委員長 メディアの使い方はどうしているのか。

A寺本係長 メディアに依頼したことはなく、情報を求めたメディア側がやってきた。ブランドは都会の都合でできている。BLOF野菜は糖度、硝酸化イオン、ビタミンCを計ると慣行栽培より3~4倍高い。基準となるのは田舎の基準で、形でなく味や栄養化ということだ。（BLOF理論による栽培法でつくられた野菜）また、牛乳は自然放牧で年中草をかませるので、味が年間では一定とはならない。そこで、「四季のめぐみ」として売り出した。都会の大手による基準を、変えることにより新しい対応ができるようになる。味でそれを数値で示すことにより、メディアの見かたも変わる。ネットの時代なので聞きつけたメディアにSNS（スピード、ネーミング、ストーリー）をぶつければ展開が起こる。

Q高橋委員長 邑南町のような進め方をするにあたり、その先導役をどう立ち上がらせれば良いのだろうか。

A寺本係長 外の人を入れることが大事だ。都会の人がこれこそ必要だとい

う、ものや見かたを教えてくれる。気付かないことに出会えるので、教えてくれる人を呼び込むことが肝心である。

エ) 総括

邑南町の、あの手この手のクモの巣のような人の広がりや情報の広がり、参加者は圧倒された様子で、驚きを口々に話し合っていた。説明の慣れた表情からは余裕さえ見て取れた。対処療法で道を切り開いてきた自信がみなぎっているのだろう。この出会いを非日常にしてしまっただけでは同じ道を繰り返す。